

目次

第一編 自然環境

第一章 位置・面積	15
一、位置	15
二、面積	18
第二章 地形	19
一、地形の概況	19
二、各地区の地形	22
三、地形と農業	33
第三章 地質	34
一、地質の概要	34
二、各地域の地質	36
三、土壌の概要	50
第四章 気候	52
一、気候概況	52
二、気象条件の特徴	53
1 気温	53

第五章 生物

2 天候	55
一、植物	65
1 概観	65
2 伊豫岡八幡の植物	65
3 谷上山の植物	70
4 鶴崎・唐川の植物	73
5 遺体植物	74
6 文化財としての植物	79
7 帰化植物	81
二、動物	82
1 ほ乳類	82
2 鳥類	83
3 その他のセキツイ動物	84
4 昆虫	84

第二編 歴史

1	明治初年の状況	269
第四章 近代		
1	明治以降の郡中地方	269
2	めまぐるしい新政	255
3	廃藩置県	259
4	大洲若宮騒動	260
5	宇和島県・松山県への移行	267
一、開発と産業		
1	松山征討	255
一三、新政と郡中		
1	三町の成立と発展	226
2	郷村の流れ	230
3	村役人	234
一一、町郷の展開		
1	貢租	221
2	村方制法	214
3	支配のしくみ	209
一〇、郡民支配		
1	郡中保国隊	205
2	農兵の準足軽化	204

第三編 行政・財政		
第一章 行政区画の変遷		
1	山腹の集落、鶴崎・両沢	305
2	背後に山を負った農村集落	306
3	計画的に形成された在町	309
二、明治前期の行政区画		
1	明治維新後の村村	310
2	郡区町村編成法と郡役所	315
三、太平洋戦争下の生活		
1	本郡の塩田	280
2	はぜ・木ろう・甘蔗	281
3	三島陶器	289
4	唐川の砥石	293
5	絣織物業	297
6	郡中の陶磁器	298
1	明治以降の備荒制度(郡中貯)	274
2	ロシア捕虜と彩浜館	278
二、特産物の変遷		
1	郷筒の成立	202
2	コレラ・麻疹	200
3	地震と干害	196
4	災害と疫病	196
5	経理と修補	192
6	築港への道	187
7	郡中築港	187
8	幕府貯穀令	174
9	窮民救済と備荒	173
10	貯穀と備荒の展開	173
11	麻生水論	170
12	池の築造	161
13	百姓一揆	155
14	農民問題	155
15	公料替地	154
16	天領の成立	150
17	加藤泰堅・所領没収	149
18	天領問題	149
19	大洲松山入会山紛争	143

第一章 原始・古代		
一、縄文時代		
1	弥生時代の生活	91
2	弥生式土器・石器の出土遺物	92
三、古墳		
四、律令制度になつての伊豫		
1	伊豫郡の成立(国・郡・里)	113
2	条里制	115
3	伊豫の荘園	116
第二章 中世		
一、中世の概況		
第三章 近世		
一、領主の交替		
二、大洲加藤氏とその家統		
1	大洲領主	126
2	新谷領主	130
三、替地問題とその余波		
1	大洲領と松山領の替地	134
2	米湊網代騒動	137

四、天領問題		
1	大洲松山入会山紛争	143
2	加藤泰堅・所領没収	149
3	天領の成立	149
五、農民問題		
1	百姓一揆	155
2	池の築造	155
3	麻生水論	161
六、貯穀と備荒の展開		
1	窮民救済と備荒	173
2	幕府貯穀令	173
3	貯穀と備荒の展開	173
七、郡中築港		
1	築港への道	187
2	経理と修補	187
八、災害と疫病		
1	地震と干害	192
2	コレラ・麻疹	196
九、農兵制度		
1	郷筒の成立	202

3	市制・町村制の公布と地方自治制の確立	317
第二章	市制実施	320
1	市制実施を必要とした理由	320
2	合併に至るまでの経緯の概要	321
3	新市建設計画	323
4	合併の協定書	331
5	市設置の申請	333
1	合併の議決	333
2	伊豫市設置申請	334
6	伊豫市設置の許可	335
7	県議会の議決	335
8	伊豫市制施行	336
9	伊豫市のあゆみ	338
1	伊豫市の誕生	338
2	伊豫市政の概要	338
3	伊豫市歴代の三役	339
4	市議会	340
5	行政事務機構	343
6	鶴崎部落の境界変更	345
7	平岡部落の境界変更	350
5	社会福祉協議会	385
6	民間活動	386
第五章	保健衛生	392
1	明治以後の衛生行政	392
1	衛生組合	392
2	保健所の設置	395
3	伊豫市保健センターの設置	397
2	伝染病予防と寄生虫駆除	398
1	急性伝染病	398
2	慢性伝染病	401
3	寄生虫	402
三、成人病		403
1	がん	403
2	心疾患・脳血管疾患	407
3	老人保健法に基づく医療以外の保健事業	408
4	婦人の健康づくり推進事業	409
四、母子保健		410
五、環境衛生		412
1	上水道	412
2	伊豫市上水道の誕生	415

3	下水道	419
4	廃棄物（清掃事業）	420
5	火葬場	423
六、医療関係施設		424
1	診療所（開業医等）	424
2	休日医療（在宅当番制）	425
3	隔離病舎	425
七、国民健康保険		427
1	制度の沿革	427
2	新国民健康保険	428
八、健康都市宣言		429
九、人口動態		431
1	伊豫市の人口	431
2	自然増加	434
第六章	土木	435
1	道路と橋梁	435
二、港湾		440
三、都市計画		441
1	街路事業	443
2	下水道事業	444

3	市制・町村制の公布と地方自治制の確立	317
第二章	市制実施	320
1	市制実施を必要とした理由	320
2	合併に至るまでの経緯の概要	321
3	新市建設計画	323
4	合併の協定書	331
5	市設置の申請	333
1	合併の議決	333
2	伊豫市設置申請	334
6	伊豫市設置の許可	335
7	県議会の議決	335
8	伊豫市制施行	336
9	伊豫市のあゆみ	338
1	伊豫市の誕生	338
2	伊豫市政の概要	338
3	伊豫市歴代の三役	339
4	市議会	340
5	行政事務機構	343
6	鶴崎部落の境界変更	345
7	平岡部落の境界変更	350
3	財政	353
一、旧町村の財政		353
1	財政規模と住民負担の推移	353
2	徴税制度と貯蓄組合	355
二、伊豫市の財政		357
1	健全財政の維持	357
2	財政の推移	358
第四章	社会福祉	363
一、社会福祉法に基づく事業		363
1	生活保護	363
2	児童福祉	366
3	母子福祉	370
4	精神薄弱者福祉	372
5	老人福祉	373
6	身体障害者福祉	378
二、その他		380
1	国民年金	380
2	地方改善事業	381
3	交通災害共済制度	382
4	戦争犠牲者の援護	384

3	下水道	419
4	廃棄物（清掃事業）	420
5	火葬場	423
六、医療関係施設		424
1	診療所（開業医等）	424
2	休日医療（在宅当番制）	425
3	隔離病舎	425
七、国民健康保険		427
1	制度の沿革	427
2	新国民健康保険	428
八、健康都市宣言		429
九、人口動態		431
1	伊豫市の人口	431
2	自然増加	434
第六章	土木	435
1	道路と橋梁	435
二、港湾		440
三、都市計画		441
1	街路事業	443
2	下水道事業	444

3	都市公園事業	446
4	国土調査(地籍調査)	446
	四、治水	447
	第七章 警備・治安	449
	一、警備	449
1	消防の沿革	449
2	近代における消防	456
3	常備消防	463
	二、治安	474
1	民衆による治安—保安組合	474
2	伊豫警察署の沿革	475
3	警察庁舎の建築	478
4	歴代署長	481
	第八章 徴兵・兵事	482
	第九章 選挙	527
一、選挙制度のあゆみ	527	
二、国および地方選挙	530	
1 国の選挙	530	
2 地方選挙	538	
三、選挙管理委員会と明るい選挙推進協議会	548	

1	選挙管理委員会	548
2	明かるい選挙推進協議会	549
	第一〇章 労働問題	550
	一、明治初期の農民運動	550
	二、戦前の労働運動	551
1	郡中町の暴動	551
2	労働組合運動	555
	三、戦後の労働運動	557
1	労働者の生活破たんと虚脱状態	557
2	労働組合の発生と伊豫市職組の争議	558
	第十一章 広報及び区長会	560
	一、広報と行政	560
1	はじめに	560
2	広報紙の発行	561
3	市民の声を聞く会(市政懇談会)	563
	二、区長会と行政	564
	三、各種委員会	568
1	教育委員会	568
2	選挙管理委員会	569
3	公平委員会	569

第四編 産業・経済

	第二章 官公署・施設等	572
6	農業委員会	571
5	固定資産評価審査委員会	570
4	監査委員会	570
	第一章 農業経営	581
	一、土地利用と水利	581
1	農地の分布及び土地利用の推移	581
2	農地の権利移動	582
3	水利技術の発達	591
4	道前道後平野農業水利事業	600
	二、土地制度と農地改革	602
1	農地調整と自作農創設	602
2	農地改革	604
3	農業委員会	606
	三、土地改良事業	608
	四、経営の動き	609
1	農家戸数と人口	609
2	農業就業と経営規模	610

	五、農業生産の動き	612
1	作目編成の動向	612
2	農業技術の指導	614
3	主な農業施策	618
	第二章 農業の近代化	623
	一、農業振興の基本構造	623
1	農業生産の目標	624
2	重点作目の生産目標	625
3	農業生産技術の改善目標	627
4	集・出荷販売の改善目標	627
	二、生産振興計画	628
1	全体構想及び地域別振興方針	628
2	主要作目の生産誘導と生産向上の方針	629
3	地域農業振興のための指導方針	630
	第三章 農業協同組合	631
	一、戦前の農村産業組合	631
1	産業組合法制定以前の農村協同組合	631
2	農村産業組合の漸次的発展期	632
3	農村産業組合の発展と統制機関化の時期	633
	二、戦後の農協協同組合	635

1	戦後の農業会	635
2	初期の農業協同組合	638
3	再建整備の時期	638
4	整備促進体制下の農協	639
三、農業倉庫		640
1	農業倉庫の意義と機能	640
2	農業倉庫の実態	641
四、農業災害補償制度		642
五、現代の農業協同組合		644
1	伊予農業協同組合	644
2	南伊予農業協同組合	647
3	伊予園芸農業協同組合	648
第四章 林業		654
一、山林の分布と経営条件		654
1	森林の分布と自然条件	654
2	所有形態	654
3	樹種別面積と蓄積量	655
二、林業経営の推移		656
1	造林	656
2	林産物	657

3	その他	660
4	林道	660
5	松くい虫防除対策	660
6	森林組合	662
第五章 商業		665
一、藩政時代の商業		665
1	町のなりたち	665
2	各種の商業	666
二、明治以後の商業		672
三、現代の商業		675
1	商業の近代化	675
2	商工会議所	679
第六章 工業		682
一、明治ごろの工業		682
二、工業の現況		683
第七章 水産業		700
一、漁村の形成		700
二、漁場と漁法		703
三、漁業組の変遷と活動		705
四、郡中・松前の網代紛争		717

五、漁業形態及び漁業の現況		722
六、水産加工		729
第八章 金融		734
一、金融の変遷		734
二、明治以降の金融		736
1	銀行業の発生と発展	736
2	産業組合	742
3	郵便貯金	744
三、大正期以降の金融		745
四、戦後の金融の状況		749
五、現在の金融機関		751
第九章 交通・運輸・通信		752
一、交通		752
1	明治以前の交通	752
2	明治期における交通・運輸	758
3	大正期における交通	778
4	昭和時代の交通・通信	783

一、大洲・新谷藩の文教と郡中地方		797
二、学問の興隆		799
三、寺小屋の教育		803
第二章 明治時代の教育		808
一、学制の発布と実施		808
二、教育制度の確立		814
1	小学校制度	814
2	小学校の変遷	815
三、教育の整備		823
1	町村立小学校の整備	823
2	小学校教育の統制	829
3	当時の教育の状況	832
4	青年団の発足と青年教育の開始	835
5	教育関係諸団体・その他	840
第三章 大正時代の教育		843
一、小学校教育の充実		843
1	教育制度の拡充	843
2	学校建築の拡充	844
3	新教育運動の展開	845
二、実業教育の進展		847

第五編 教育

第一章 藩政時代の教育	797
-------------	-----

一、神社の変遷	959
二、現代の神社	964
第二章 寺院	989
一、寺院の変遷	989
1 寺院のおこりとその変遷	989
2 明治時代の寺院	992
3 戦争と寺院	992
二、現在の寺院	994
三、転廃寺	1024
第三章 キリスト教	1029
一、沿革	1029
二、教会	1031
第四章 教派神道・その他	1034
一、天理教	1034
二、金光教	1036
三、黒住教	1037
四、立正佼成会	1038
五、生長の家	1040
六、創価学会	1041

1 伊予郡立実業学校の創設	847
2 実業補習学校の進展	848
三、教育関係団体の成長	849
1 青年団の発展	849
2 女子青年団の活動	850
3 婦人会の結成	851
4 幼児教育	852
5 その他の団体	853
第四章 昭和時代の教育	854
一、昭和初期の教育	854
1 小学校教育の変化	854
2 小学校校舎の増改築	856
3 青年学校教育の振興	860
4 各種団体の状況	861
二、戦時下の教育	863
1 初等教育の戦時体制	863
2 小学校教育の変化	870
3 青年学校教育の戦時体制	872
4 青少年団体の新体制	873
5 婦人団体の強化	875

第七編 民俗

第一章 村落社会の構造	1045
一、昔の村	1045
二、村(部落)の自治	1045
三、地名のおこり	1048
第二章 労働慣行	1055
一、共同作業	1055
二、村休み	1057
第三章 俗信・風習	1059
1 俗信	1060
2 風習	1063
第四章 年中行事	1065
第五章 民話と伝説	1070
一、端の左衛門	1070
二、入仏寺の伝説	1074
三、ちち子が池のどんこ	1074
四、尼弘法(妙円尼)	1076
五、五色浜の石	1076
六、一木神社の伝説	1078

第六編 宗教

三、戦後の教育	877
1 戦後の義務教育	877
2 教育委員会	883
3 P・T・Aの活動	893
4 公民館の活動	896
5 青少年団体	901
6 婦人団体	905
7 図書館	909
8 幼稚園、高等学校、その他	911
四、昭和後期の教育	914
1 義務教育の充実と発展	914
2 同和教育の推進	925
3 社会教育の進展	929
4 図書館と文化団体の活動	940
5 社会教育団体の活動	946
6 社会体育の振興	951
7 幼稚園・高等学校・その他	955
第一章 神社	959

第一章 美術・工芸	1143
一、美術・工芸の沿革	1143
二、石造美術	1146
三、伊豫市保管の美術工芸品	1149
四、稲荷神社保管の美術工芸品	1150
五、興徳山福田寺の美術工芸品	1154
五、興徳山福田寺の美術工芸品	1154
五、興徳山福田寺の美術工芸品	1154
七、泰昌山栄養寺の美術工芸品	1159
八、谷上山宝珠寺の仏像	1159
九、湊町大師堂の工芸品	1160
一〇、下吾川豊円寺の仏像	1161
一一、北村家(灘町)の書画	1161
一二、玉井家(上野)の書画	1162
一三、人形、その他	1163
第二章 文芸	1165
一、漢学・漢詩文	1165
二、洋学	1208
三、和歌	1213
四、俳句	1224
第三章 文化財	1252

七、谷上山宝珠寺の絵馬	1079
八、久美(九尾)さん	1080
九、蒲の城	1082
一〇、九門修理と虎月毛	1082
一一、大地蔵盆おどり	1083
一二、千人塚の伝説	1084
一三、白滝城と森山城	1086
一四、国松丸の伝説	1086
一五、森村の雨ごい	1087
一六、市場の祇園さん	1088
一七、猿神の伝説	1088
一八、上吾川の太刀打場	1089
一九、森の扶桑木	1091
第六章 こどもの生活	1092
一、こどもの遊び	1092
二、わらべうた	1094
第七章 民謡	1106
一、労働の中の歌	1106
1 田鋤歌・牛追い歌	1106
2 苗取り歌	1107

第四章 観光	1270
一、観光資源の現状	1270
二、観光施設	1276
三、行事	1279
四、名物・名産	1281
第九編 人物	1285
第一章 人物	1285
第二章 伊豫市にゆかりのある人	1337
第一〇編 年表	1367
第一一編 伊豫市史資料	1385
豫州 御替地古今集	1385
大洲領	1385

第八章 諸芸・文化財・観光	1117
第九章 俚諺	1123
第一〇章 方言	1126
二、祝いごと・祈願などの歌	1117
1 亥の子歌	1117
2 雨乞い歌	1119
第八章 郷土芸能その他	1119
第九章 俚諺	1123
第一〇章 方言	1126
3 田植歌	1107
4 田草取歌	1108
5 もみすり歌	1108
6 米つき歌	1110
7 うすひき歌・粉ひき歌	1110
8 地つき歌	1110
9 糸ひき歌	1113
10 樽漕歌・船頭歌	1113
11 木挽き歌	1114
12 機織り歌	1114
13 馬子歌	1115
14 雑歌	1115